

新參者

赤谷慶子

最愛の相棒天使になりて早三年経過。一月に縁ありて新しき相棒家族の一員になりき。通常六十歳を超ゆれば、保護犬や猫の里親として認めらるる事能はず。従ひてペットショップなどにて購入する方法のみ残れども、自分としては得べくんば殺処分免るるやう保護犬を所望す。

災害救助を行ひたる日本にては比較的先驅者のピースウィンズジャパンといふ團體あり。その團體ピースワンコといふ名稱の下、廣島におきて殺処分ゼロを目指し、犬の保護活動行ひたり。夢乃丞といふ災害救助犬を育てし事により、その活動は廣く知らるる事となりたり。保護犬に興味ありし自分はサイトにて探しまくり、その團體の活動はウェブサイトにて閲覧に供せらるるありと知る。ただ、廣島、湘南は遠方に過ぐと思ひたりしところ、支部を馬事公苑を昨年十二月に設立せし事判明す。ピースワンコは年齢制限設けてをらず、創立者を知りたる友人の紹介にて、一月に馬事公苑へ赴く。天使になりし相棒に良く覺えたる犬に目星を付けたれど、センターに足を踏み入れし時にある家族すでに相談するあり、その犬の里親は決まりけり。八頭ほどの犬の内、一匹黒柴の雑種に目留まる。その犬は大人しく、賢ければセラピー犬の訓練を受けしといふ。ただ、大きな音に異常なる反應を示すため、セラピー犬に適切ならずといふ判断に至り、訓練を中断しきといふ。それならば、我家の猫とも上手く共同生活するを得るにあらざやと考へ、即決にて申し込む。一週間のトライアルを経て正式譲渡になるといふ。翌週、あられちゃんを受取りに馬事公苑を再度訪れ、連れて帰りき。思ひし通り、いと賢く、大人しき犬なるが、あまりにも色々なる事に怯ゆるため不憫なりき。しかしながら、一週間も経つと慣れ、玄關に人立つと吠える。さうか、番犬の役も可なりやと感ずる所あり。ミケ子さんとも距離を保ちつつ共同生活成り立ちぬ。再びあられちゃんと馬事公苑に行き、正式譲渡の手續きを取り、赤谷家の家族の一員となりき。毎日早朝六時の散歩、午後の散歩と夜の散歩、三回行くはいみじきなるが、自分の健康にも良し、少し決まり事の多き生活になれど、お互快適に過ごす事叶ひこの上なき喜びなり。

ピースワンコの保護活動は翌週NHKの朝のニュース番組の中にて取り上げられ、あられちゃんは「その卒業犬として寫眞残つてをり、テレビに映りたり。友人たちより「あれらちゃんテレビに出でたり」と聯絡多し。

(平成十九年二月十八日受附)